

長野日報

アマチュア無線愛好家
ARDF大会 80人競う

大芝高原をメイン会場に



受信機の確認をする選手

県内のアマチュア無線愛好家有志でつくる長野ARDFクラブは13日、屋外に設置した発信機の電波をキャッチして場所を探し当てるオリエンテーリング「ARDF」の大会を南箕輪村の大芝高原をメイン会場に開いた。中学生が

ら70代まで延べ80人ほどが参加。無線の扱いに加えて地図の読解力や山野を移動する体力も求められるといい、選手たちは機器を手に山林などを駆け回った。

大会は午前と午後に分かれ、周波数（午前は144MHz、

午後は3・5MHz）行動範囲などを変えてそれぞれ実施。参加者は公園内の山林などに複数配置した発信機の電波を捉えて制限時間内により多く見つける一方、所定のゴールにたどり着く早さも競い合った。

50年以上アマチュア無線を続けている60代男性は「屋内の交信とは違い、走り回るのは気分が良い。電波が反射するのでなかなか見つからなかったけど、見極めるのも楽しい」と話していた。

折井匡会長はARDFについて「実際に顔を合わせて、いろんな土地でプレーが楽しめる。電波の特性を踏まえつつ、地図を読み解く頭脳戦でもあり、走る体力も必要といういろいろな要素を楽しんでいる」と話していた。

（小坂和史）